

# ● 第2回高橋宏幸賞 ● 童話秋田県コンクール ● 作品集

明るく元気の出る町  
広報ひがしゆり 1994年2月号 特集号



本荘市立新山小学校

3年 伊藤昌士くん

「チロヌップのにじ」



**最優秀賞作品**

本荘市・清徳幼稚園

5才 鈴木一磨くん  
「おおきなかぶ」



感想画



▲最優秀賞に選ばれた佐藤幸恵さん（高瀬小・5年）が感想文を発表しました。



▲阿部町長から賞状・記念品の授与、高橋宏幸先生からは童話絵本と直筆の色紙が贈呈されました。

# 小学生の部

大琴小学校

1年 畠山和人くん

◀「チロヌップの子さくら」



八塩小学校

4年 八嶋春樹くん

◀「七いろの雪」



## 優秀賞作品



### 幼児の部

永慶保育園

5才 大日向志穂さん  
◀「ガリバー旅行記」



▶永慶保育園

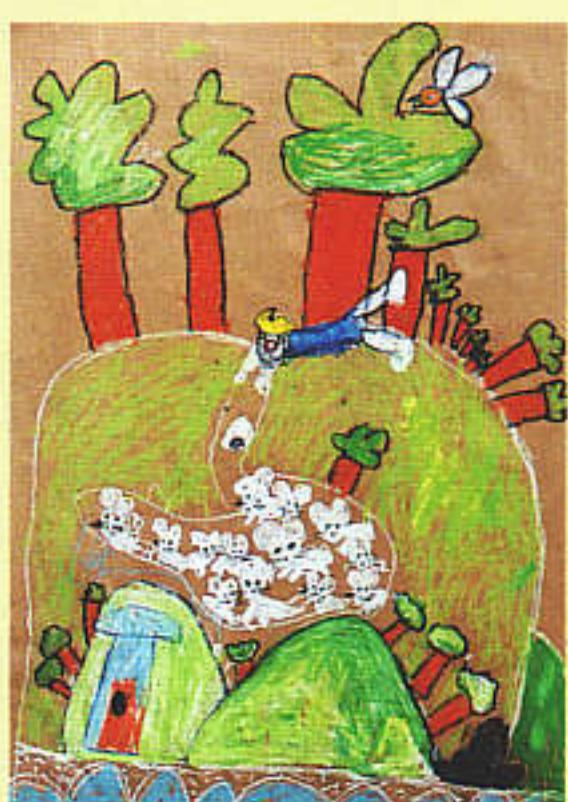
4才 遠藤裕一くん  
「ないたあかおに」



### 感想画

清徳幼稚園

5才 三浦圭太くん  
◀「おむすびころりん」



▶亀田保育園

4才 石垣裕太郎くん  
「小人とくつや」



小砂川保育園

5才 須田由香さん  
◀「かさじぞう」



▶平沢小学校

4年 佐藤磨璃さん  
「いぬぼえとうげ」



八塩小学校

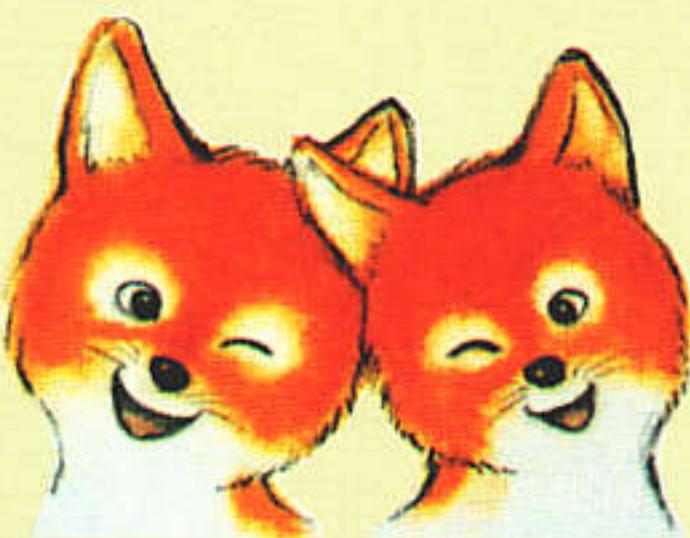
5年 佐藤泰子さん  
◀「チロヌップのきつね」





秋田経法大附属  
さくら幼稚園 「いっすんぱうし」  
▲水澤雄太くん 5才

## 佳 作



新山小学校 1年  
鎌田潤一くん  
「きょうりゅうで町はおおさわぎ」



▲こまどり幼稚園 5才  
伊藤遥香さん「シンデレラ」



▲平沢小学校 4年  
斎藤聖永くん「チロヌップのきつね」



▲岩谷小学校 1年  
堀川俊之くん「花さき山」



▲清徳幼稚園 5才  
久杉亮くん「ぞうくんのみつけたしごと」



▲八塩小学校 5年  
嶽石元気くん「チロヌップのきつね」



▲大琴小学校 2年  
高橋久美さん「てぶくろをかいに」



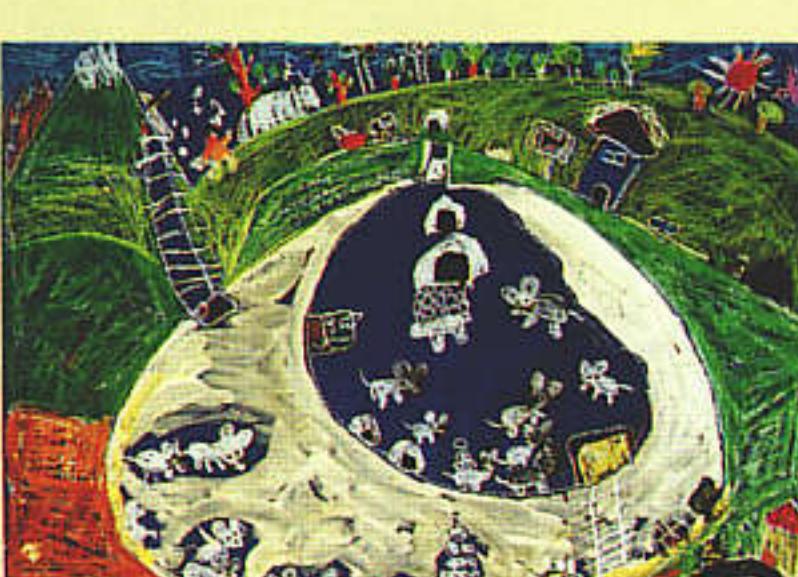
▲亀田保育園 5才  
中村響子さん「チロヌップのきつね」



▲みどり保育園 6才  
長谷山貴博くん「だいくとおにろく」



▲新山小学校 3年  
岩井誠くん「チロヌップのにじ」



▲清徳幼稚園 6才  
長田恭彦くん「おむすびころりん」



▲神代幼稚園 6才  
鳴村興樹くん「エルマーのぼうけん」



▲鶴舞小学校 3年  
田口元くん「かさじぞう」

# 感想文



## 最優秀賞作品

東由利町立高瀬小学校

5年 佐藤幸恵さん

「A・H博士のふしぎな時計」

もし時間の流れをとめる時計があつたら、どんなにすてきなことでしょ

う。このいそがしい世の中で時間をとめることができますか。

それができるのです。時計の発明者は、アルス・ホッペルマイヤー博士です。博士は、すぐれた時計の生産国イスイスにすんでいました。この時計が完成したときは、「五年間もよくがんばったな」と友人に言われて博士は、ビックリぎょうてん、博士は研究室でくらした時間は、二年五ヶ月と十六日間だったからです。大成功でした。

おとなも子どもも、男も女も、毎日毎日時間にしばられ、時間においてられ、時間のどれいになつている。時間というものを自由にできたら、その流れをとめることができたら、人類は、この地球上に戦争をな

くすことだつてできるだろう、戦争のための時間がとまれば、戦争そのものがとまる。つまり、戦争なんかやつているひまがないという理屈なんだそうです。

博士は、ローマでひらかれる「現代人の生活と時間の関係」について、講演をするために、新発明の不思議な時計をもつて、発表する考えでしたが、その途中でぬすまれてしましました。

それから、この時計は、いろいろな人々とかかわり、そして、不思議な出来事をおこして、今は、若葉病院の愛田先生が持っています。先生は、心ぞう病で、ずっと入院している誠くんに、この不思議な時計の話ををしてやりました。それを聞いた誠くんは、病室にとじこもって、空想の散歩しかしたことのない男の子から、むずかしくて時間のかかる危険な手術をして下さいと、たのもよくな強い男の子になつたのです。

「ほくはいやだ、もういやなんだ。

病院から一歩も外へ出られない毎日なんか死んだも同じです。外へ出たいんだ、学校へも行きたいんだ。それができたら、次の日には死んだって、ほくはかまいやしないんだ。」

という誠くんの言葉に、私は希望を持って、立ち向かうことが大切なんだと思います。誠くん、「がんばれ。」と言つていました。

そしてそれが、一日中もかかった大手術の成功と、不思議な時計の魔法の力をひきおこしたのだと思いました。この時計は、決して時計がなにもかもをしているのではなく、人の心が時計を動かしているのだと思いました。楽しいことをしている時とか、見えている時は、時間がとても早く短く感じられます。「もう少し、時間があつたらなあ。」と思つてしまします。その逆の時、特にとてもいやな事をしている時などは、なんと時間の進むのがおそく感じられることが。よく、時間は自分で作るものだと言いますが、私もその通りだと思います。自分の頭で、ものごとをじっくり考える習慣や力を失わず、不思議な時計を心の中に持つていただきたいです。

みなさんがお書きになつた感想文を拝見し、原稿用紙の升目ひとつひとつに力強い文字で書かれていることに感心しました。また、感想画もばかりで非常に感動しました。

私は小さい頃、ほとんど本を読まず、本格的に読みだしたのは終戦後、東京に出てきてからです。たまたま買った梓徳也の詩集でしたが、この一冊の本が私の一生を変えてしまつたということです。「お前さんの中には、お前さんしかもつてないもう一人のお前がいるんだ」という内容のもので、今日までもう一人の自分を探しながら考えながら頑張つた気がいたします。

このように一冊の本には、その人の一生、その人の価値を決める力が秘められています。すぐれた作品はいつまでも心に残るものです。これからもすぐれた本に出会い、もう一人の自分を見つけてください。

高橋宏幸先生  
お祝いのメッセージ





# 優秀賞作品

仁賀保町立院内小学校

2年 今野裕 優さん

「チロヌップのきつねを読んで」

わたしは、チロヌップのきつねを読んで思つたことは、せんそ者がなければちびこたちはしあわせにくらせたのにな、ということです。

へいたいたちは、おばあさんといつしょにこんぶをほしに行つていたちびこを見つけて、てっぽうでうとうとしました。おばあさんは、石につまづいてころんでも、ちびこをまもろうとしました。わたしは、おばあさんは、とてもやさしいと思いましました。へいたいたちは、ちびこをころななかつたから、おばあさんのやさしい気もちがへいたいたちにもわかつたんだと思いました。

おばあさんたちがしまからはなれないので、ちびこを森にかえしました。それからは、かぞくとなかよくくらしていだちびこですが、森の下に行つた時、おにいさんぎつねが、じゅうでうたれてころされてしましました。ちびこもわなにかかつてしましました。おかあさんぎつねは、ちびこが人間に見つからないように草をかけたままに見つからました。おとうさんぎつねは、ちびこたちをまもるため、わざと下に行つてへいたいたちにじぶんをおいかけさせて、ちびこたちのいよい方にはしつていったのだと思ひます。おとうさんぎつねは、とてもやさしくて、つよい心をもつていていました。

おとうさんもいなくなつてしまい、おかあさんとちびこだけの冬がきました。おかあさんは、やつとのことしなせないためにあたためてあげたのだと思います。けれども、おかあさんもちびこも、そのまましんでしまいました。わたしはとてもかわいそうで、かなしくなりました。

へいたいたちは、どうしてちびこたちをこんなひどいめにあわせたのかと思いました。それは、せんそうで食べものがなかつたり、毛をマフラーにして、じぶんたちがあたまるためだつた思います。前にへいたいたちは、ちびこをころさなかつたのだから、へいたいたちにもやさしい心があると思います。だから、き

とさけんでこどもをさがす、母のこのときの気持ちは、とてもわたしたちは想ぞうのつかないものだつたと思います。こなごなにくだけたコングリートの中にうずもれたぼう空すきんが見え、かよこの上半身がぼう空すぎんにまもられてやけのこつたのを見つけたとき、たつた一人しかいない子どもがこのようなすがたになつたのを見たとき、父と母はどんな気持ちだつたことか。悲しくつらい気持ちだつたことでしょう。

でもかよこは、一人ぼっちでなん日も、なん日もいたのです。とてもさみしかつたことでしょう。毎日毎日やけあとをさがし歩いてくれてとうとう見つけてもらつたのです。きっと天国でありがとうお父さん、お母さんと思ったでしょう。わたしは、読んでいるうちに目にいっぱい読みながらできました。悲しくなりました。「せんそう」があつたかわいそ娘がいたところに、きつねざくらがさいていました。それもちびこのりほんの色と同じ色の赤い花がぼつりぼつに生まれてよかつたと思います。わたしは、おばあさんにかわいがられて、りほんをつけてもらつたときの、とてもかわいくてしあわせなちびこを思い出しました。

東由利町立八塩小学校  
3年 小松大華さん  
「かよこ桜を読んで」  
「かよこー。」

とさけんでこどもをさがす、母のこのときの気持ちは、とてもわたしたちは想ぞうのつかないものだつたと思います。こなごなにくだけたコングリートの中にはうずもれたぼう空すきんが見え、かよこの上半身がぼう空すぎんにまもられてやけのこつたのを見つけたとき、たつた一人しかいない子どもがこのようなすがたになつたのを見たとき、父と母はどんな気持ちだつたことか。悲しくつらい気持ちだつたことでしょう。かよこいたりわらつたりできる所、そんな子どもたちを見ていることができるかもしれません、桜の木になつてよかつたと思つていることでしょう。かよこたちのよう、こわい、つらい時があつたから、せんそうのない平和な今があるのだと思います。わたしは幸せな時に生まれてよかつた今を大切にしなければと思いました。せんそうなんてどんなことがあっても、おきてはいけないので。人をふ幸にしてしまいます。かよこだつて幸せなときには生まれていたら学校で勉強もでき、お父さん、お母さんと楽しくくらすことができたと思います。わたしは、せんそうちもない平和などに生まれてよかつたと思います。かよこさん、桜の木から見ていてね。

「幸せなわたしたちを。」

で花になりたい、子どもがすきで小学校の先生になりたいといつていてかよこのために桜の木を植えてめがでたときは、かよこのお母さんは本当にうれしかつたと思います。桜の花はかよこのかわりだと思います。桜をさかせ、毎年入学しきのときは、桜の花びらでかざるなんて本当に桜道のような学校でしようね。夏になると、桜の木の下で子どもたちが休みながら、おしゃべりをしたり、ないう空すぎんにまもられてやけのこつたのを見つけたとき、たつた一人しかいない子どもがこのようなすがたになつたのを見たとき、父と母はどんな気持ちだつたことか。悲しくつらい気持ちだつたことでしょう。

でもかよこは、一人ぼっちでなん日も、なん日もいたのです。とてもさみしかつたことでしょう。毎日毎日やけあとをさがし歩いてくれてとうとう見つけてもらつたのです。きっと天国でありがとうお父さん、お母さんと思ったでしょう。わたしは、読んでいるうちに目にいっぱい読みながらできました。悲しくなりました。「せんそう」があつたかわいそ娘がいたところに、きつねざくらがさいていました。それもちびこのりほんの色と同じ色の赤い花がぼつりぼつに生まれてよかつたと思います。わたしは、おばあさんにかわいがられて、りほんをつけてもらつたときの、とてもかわいくてしあわせなちびこを思い出しました。

かよこさん、桜の木から見ていてね。

## 東由利町立大琴小学校

4年 高橋英樹くん

### 「かわいそうなきつねの家族」

ぼくは、実さいにきつねを見たことはありませんが、テレビや写真では見たことがあります。親ぎつねはするどい目をして、何となくこわそですが、赤ちゃんきつねは、目がくりくりして、とてもかわいく、犬の赤ちゃんに、にています。チロヌップのチビぎつねもとてもかわいいきつねです。ぼくは、このチビぎつねがどのようにして大きくなつていいくのか楽しみにこの本を読みました。

ようやくちぢばなれした子ぎつねは親ぎつねからにおいをかぎわけることを教えてもらいました。何のにおいかわからないと自分でえものをそれなくて死んでしまうからですが、人間の子どもは食べ物を親が用意してくれるので、それに比べたらきつねたちは何とたくましいことだろうと思いました。父さんぎつねがとつてきたえものをやぶの中や土の中にかくして、子ぎつねを呼ぶと、この子ぎつねはすぐやってきます。きつねの鼻は、すごいんだなあとと思いました。

それから子ぎつねは夏の間、魚をとりにやってくるおじいさんとおばあさんにかわされることになったのですが、ぼくは自分の親とはなればなれにくらすこの子ぎつねがかわいそうに思いました。ぼくは生まれてから一度も親とはなれたことがないので、もしはなれてしまつたら、きっと毎

日泣いていたでしょう。でも、おじいさんやおばあさんがとてもかわいがつてくれたので、子ぎつねはさみしい思いをせずにすんだかもしれません。

冬になって、おじいさんとおばあさんが島をさつて行くと、子ぎつねはまた家族でくらすことになります。でも、この幸せなくらしも長くは続きませんでした。兵たいがきつねをころして毛皮をとるためにこの島にやつてきたからです。兵たいがじゅうをかまえ、きつねをねらつた時、ぼくも思わず、「にげる」とさけんでしまいました。でも、お父さんぎつねは死をかくごでじゅうにつつこんでいつてしましました。自分の家族を守るために自分がおとりになつたのです。この父さんぎつねの勇気と家庭をどうしても守りたいという気持ちにぼくは、深く感動させられました。そしてそれと同時に、きつねをじゅうでうつた兵たいのざんこくさにすごくはらがたちました。

はらがたつたのは、これだけではありません。今度は母さんぎつねたちも兵たいのしかけたわなにかかってしまったのです。人間の自分のことしか考えないかつてな気持ちのせいで幸せなきつねの家族までが悲しい目にあつてしまつたことをぼくは同じ人間としてはずかしく思います。

戦争が人の心までみにくくしてしまったなんて。だからぼくは、この本を読み終えた時、すつきりした気持ちにはとてもなれませんでした。

クリングゾア先生が、指を二度パチンと鳴らして、魔法の文句をとなえます。すると、生徒たちは、先生の魔法の力で、何でもやる気をおこしてがんばります。だれも、魔法にかけられたことに気がつかないままに。この物語には、そんなワクワクするような出来事がいっぱいです。

パウルヒエンは、体育が得意ではありません。「太りすぎて、ぶきつちよだから」と、クラスの友達も、パウルヒエンもそう思っていました。でも、クリングゾア先生は、「こわがりすぎていて、自信がもてないだけなんだ」と思っています。先生の魔法の力でパウルヒエンは、平均台を歩くことものほり棒も上手に出来るようになります。私は、クリングゾア先生が、パウルヒエンにかけた魔法は、何だったのだろうかと考えました。特別なことをしたのではありません。それは、「やればできるのだ」という自信を与えたことです。自信たっぷりになつたパウルヒエンから、魔法をとりさつたのも、みんなと同じくらいに体育が出来るのだから、うまくやれないことが出てきたら、「努力しないで、やれば出来るのだから」と教えてたかったのだと思います。

クリングゾア先生は、初めて校長先生に会つた時に、「ほんの少しだけですが、魔法が使えます」と言いました。このお話を読んでいくと、先生の魔法は、本当に、「ちょっとした魔法」にすぎないことが分かります。でも、その魔法にかかるつた魔力は、本当に大きな力が与えられます。それは、何にでも自信をもつて取り組む力であつたり、新しい友達を思いやれるやさしさであつたり、まわりの大へんへの感しやの気持ちであつたりと様々です。

本当にいい先生ならだれでも、きっと、ちょっとぴり魔法を使うことができるそうです。私の学校にも、魔法を使える先生がいるかもしれません。私は、どの先生がどんなやり方で、魔法をかけているのか、見つけたいと思いました。

今、私は一生けんめいに、この感想文を書いています。もしかしたら、たんにんの藤田先生が、「純子さんなら上手に書けるから」と私に魔法をかけたのかなと思いました。

## 象潟町立象潟小学校

4年 阿部純子さん

### 「魔法が与えてくれたもの」

クリングゾア先生が、指を二度パチンと鳴らして、魔法の文句をとなえます。すると、生徒たちは、先生の魔法の力で、何でもやる気をおこしてがんばります。だれも、魔法にかけられたことに気がつかないままに。この物語には、そんなワクワクするような出来事がいっぱいです。

パウルヒエンは、体育が得意ではありません。「太りすぎて、ぶきつちよだから」と、クラスの友達も、パウルヒエンもそう思っていました。でも、クリングゾア先生は、「こわがりすぎていて、自信がもてないだけなんだ」と思っています。先生の魔法の力でパウルヒエンは、平均台を歩くことものほり棒も上手に出来るようになります。私は、クリングゾア先生が、パウルヒエンにかけた魔法は、何だったのだろうかと考えました。特別なことをしたのではありません。それは、「やればできるのだ」という自信を与えたことです。自信たっぷりになつたパウルヒエンから、魔法をとりさつたのも、みんなと同じくらいに体育が出来るのだから、うまくやれないことが出てきたら、「努力しないで、やれば出来るのだから」と教えてたかったのだと思います。

クリングゾア先生は、初めて校長先生に会つた時に、「ほんの少しだけですが、魔法が使えます」と言いました。このお話を読んでいくと、先生の魔法は、本当に、「ちょっとした魔法」にすぎないことが分かります。でも、その魔法にかかるつた魔力は、本当に大きな力が与えられます。それは、何にでも自信をもつて取り組む力であつたり、新しい友達を思いやれるやさしさであつたり、まわりの大へんへの感しやの気持ちであつたりと様々です。

本当にいい先生ならだれでも、きっと、ちょっとぴり魔法を使うことができるそうです。私の学校にも、魔法を使える先生がいるかもしれません。私は、どの先生がどんなやり方で、魔法をかけているのか、見つけたいと思いました。

今、私は一生けんめいに、この感想文を書いています。もしかしたら、たんにんの藤田先生が、「純子さんなら上手に書けるから」と私に魔法をかけたのかなと思いました。

## 本荘市立北内越小学校

5年 佐々木 美佳さん

「サロン姫三つの種をありがとう」

私は大切にしている一冊の本があります。去年の感想文の賞として高橋先生からいただいたものです。今年はこの本で感想文を書いてみようと心に決めていました。

初め表紙を見た時、女人の人と男の人が冒険をして宝を見つけるお話を想像しました。私はドキドキしながら、この本を開きました。一回読んで見た時は、ローランはとても小さい国なので、大変なことが多いんだなと、それだけしか思いませんでした。でも二度、三度と読んでいくうちに、サロン姫に腹を立ててしましました。

サロン姫は、小さくとも王国の王女です。それなのに、國の事、両親の事まで忘れて冒険に出ました。冒険の目的は命の水です。永遠の命がほしいばかりに自分の事しか考えずに旅に出たサロン姫は、何てバカな事をしたのだろうかと思わずにはいられません。もしも、私が、サロン姫の立場だったら、絶対冒険になんか行きません。家族とはなれて暮すなんて考えたこともないからです。それにサロン姫の母親は病気がち、父親といえばもう長くないとつげられているのです。こんな時だからこそ、姫が残らなければならぬと思います。きっとサロン姫は今までとても平和だったのと、その平和がいつまでも続くだろうと油断していたのだと思います。しかし、竜王の国へ行き永遠の命

をもらい自分の国へもどった時は、何もかもがおそすぎました。すでに何百年という時が流れローランの国はなく、両親も亡くなっていたのです。ただ涙を流すだけの姫。姫はどうだけ悲しかったでしょうか。そしてどれだけ後悔したでしょう。もうここには、あの自分勝手だった姫はいません。でも、それと引きかえに一番の宝物を失つてしまいました。私はサロン姫のむねの痛みが伝わつてくるようでした。

きっとサロン姫は、この悲しみをくり返してはいけないと、私たちにうつたえているのだと思います。私はサロン姫にたくさんのこと教えられました。

その一つ目は、自分の幸福だけを考え、好き勝手な事をしていると、取り返しのつかない事になってしまいういう事。

二つ目は、人間は永遠の命が無いからこそ一日一日が、楽しかったり、大変だったり。自分の年をとった時、いろんな思い出ができ両親や友達と語り合うという一生の楽しみができるのだという事。

三つ目は、人間の幸福は、自分の愛する家族や友達などの大切な人といっしょでなければできない事。この三つの事は、これから先、私を成長させてくれる種かもしれないと思いました。

「サロン姫、大切な心の種を確かに受け取りました。私はこれから大事に育て大きく実らせていきます。どうか見守つて下さい。」

## 審査講評

## 審査員 (敬称略)

### 審査委員長

佐々木 良三 先生

人間はうれしいときに、その気持ちを作文にする。また絵に描いて表現してみたいと思うものです。そして、このくり返しが立派な人間に成長する過程で大切なことです。

昔の人は、自然界に起きたできごとをそのままそつくり書いてみるとそのままそつくり模写することに夢中になりました。しかし、いくらたつてもそつくりに表現することができます。

元仁賀保町立仁賀保小学校校長

柏谷 学 (審査副委員長・感想文)  
吉尾 芳郎 (審査副委員長・感想文)  
日本児童文芸家協会評議員

井出 茂 (審査委員・感想文)  
元本荘市立鶴舞小学校校長

前東由利町立大琴小学校校長  
佐藤テイ子 (審査委員・感想文)  
岩城町立道川小学校教頭



# 入賞者一覧

(敬称略)

## 感想文

▼最優秀賞  
佐藤幸恵 (東由利町・高瀬小)

▼優秀賞  
今野裕優 (仁賀保町・院内小) 小松

大華 (東由利町・八塩小) 高橋英樹  
(東由利町・大琴小) 阿部純子 (象

潟町・象潟小) 佐々木美佳 (本荘市・  
北内越小)

▼佳作  
高橋舞子 (東由利町・高瀬小) 伊東  
佑司 (本荘市・新山小) 佐藤有紀  
(東由利町・高瀬小) 佐々木直子  
(岩城町・道川小) 工藤亞衣 (本荘  
市・尾崎小) 熊谷暁 (同) 増井晴子  
(同)

▼入選  
佐藤香織 (秋田市・豊岩小) 尾口暢  
浩 (角館町・角館東小) 茂垣葉祐  
(同) 関舞子 (本荘市・新山小) 佐  
藤優子 (本荘市・鶴舞小) 佐藤恵  
(同) 佐藤可奈子 (本荘市・尾崎小)  
佐々木円 (同) 佐々木めぐみ (同)  
板垣尚子 (同) 芳賀七重 (同) 鈴木  
百合子 (由利町・鮎川小) 畠山直美  
(同) 木内舞子 (同)

▼入選  
佐藤幸恵 (東由利町・高瀬小)  
(東由利町・八塩小) 佐藤磨璃 (仁賀保  
町・平沢小) 佐藤泰子 (東由利町・  
八塩小)

▼入選  
堀川俊之 (大内町・岩谷小) 鎌田潤  
一 (本荘市・新山小) 高橋久美 (東  
由利町・大琴小) 岩井誠 (本荘市・  
新山小) 田口元 (本荘市・鶴舞小)  
斎藤聖永 (仁賀保町・平沢小) 獄石  
元気 (東由利町・八塩小)

▼入選  
寺苗智子 (大館市・城西小) 佐藤沙  
織 (秋田市・豊岩小) 金和城 (雄和  
町・戸米川小) 宮崎裕基 (本荘市・  
新山小) 鈴木達也 (同) 今野剛徳  
(同) 梶原友和 (同) 須田愛 (同)  
遠田獎 (同) 鈴木希 (同) 加藤祐樹  
(同) 熊谷公孝 (同) 熊谷晴佳 (同)  
伊藤綾子 (同) 佐々木賢 (同) 高橋  
憲章 (同) 高橋遼 (本荘市・鶴舞小)  
佐々木佳奈子 (同) 細貝真利 (同)  
三浦礼子 (同) 高橋一樹 (本荘市・  
尾崎小) 小松幸恵 (同) 松坂陽子  
(同) 田澤吉拓 (同) 高橋智子 (同)  
佐々木誠 (同) 小野寛子 (同) 小松

## 小学生の部

▼最優秀賞  
伊藤昌士 (本荘市・新山小)

▼優秀賞  
畠山和人 (東由利町・大琴小) 佐藤  
厚 (象潟町・上郷小) 八嶋春樹 (東  
由利町・八塩小) 佐藤磨璃 (仁賀保  
町・平沢小) 佐藤泰子 (東由利町・  
八塩小)

▼佳作  
堀川俊之 (大内町・岩谷小) 鎌田潤  
一 (本荘市・新山小) 高橋久美 (東  
由利町・大琴小) 岩井誠 (本荘市・  
新山小) 田口元 (本荘市・鶴舞小)  
斎藤聖永 (仁賀保町・平沢小) 獄石  
元気 (東由利町・八塩小)

▼入選  
佐藤泰之 (同) 高橋奈津美 (同) 小  
松久美子 (同) 小松登和子 (同) 小  
松ゆかり (同) 阿曾晃 (同) 畠山洋  
幸 (同) 高橋学 (同) 佐藤沙代 (同)

遠藤真由美 (同) 佐藤美杉 (同) 鈴  
木正樹 (同) 阿部恵美 (同) 小松喜  
美 (同) 横山秀之 (同) 高沢智幸  
(同) 小松恵里子 (同) 小松郁美  
(同) 小松輝臣 (同) 畠山和幸 (同)  
まなみ (同) 渡辺正明 (同) 渡辺寛  
子 (同) 高橋元太 (同) 横山喜代子

(同) 佐藤裕美 (同) 阿部かすみ  
(同) 小松修子 (同) 伊東哲也 (東  
由利町・高瀬小) 小笠原悦子 (同)  
伊藤涼平 (同) 伊東貴雄 (同) 佐藤  
幸恵 (同) 小松裕介 (同) 遠藤志保  
(同) 遠藤沙誉子 (同) 阿部明子  
(同) 小松由佳 (同) 寅田文和 (同)

高橋里子 (同) 斎藤香澄 (同) 佐々  
木静香 (岩城町・亀田保) 矢野亞佑  
実 (同) 松本奈美子 (同) 須藤瞳  
(象潟町・小砂川保) 須藤新 (同)  
須藤宏務 (同) 伊東希 (同) 加藤晶  
り保 (同) 遠藤美加 (東由利町・みど  
り保) 遠藤未来 (東由利町・みど  
り保) 遠藤美咲 (同)

陽平 (同) 大浦映理子 (同) 織江広  
恵 (同) 伊藤秀平 (大内町・岩谷小)  
佐々木康恵 (同) 伊藤陽子 (同) 松  
倉勇太 (同) 岡見美希 (同) 佐々木  
麻千子 (仁賀保町・平沢小) 伊藤理  
沙 (同) 住吉亮 (象潟町・象潟小)  
菅原千香子 (同) 佐藤雪 (同) 小庄  
司灯 (同) 斎藤あゆみ (象潟町・上  
郷小) 佐藤弥 (同) 三船里美 (鳥海  
町・川内小) 佐藤真紀 (同) 黒木博  
人 (同) 畑山美香 (東由利町・八塩  
小) 小松慧太 (同) 小松慶子 (同)  
松久美子 (同) 小松登和子 (同) 小  
松ゆかり (同) 阿曾晃 (同) 畠山洋  
幸 (同) 高橋学 (同) 佐藤沙代 (同)

田裕司 (同) 佐藤真二 (同) 大庭也  
祉 (同) 佐々木栄幸 (同) 佐藤美喜  
子 (同) 鈴木祐介 (同) 鈴木久美子  
(同) 遠藤梓 (同)

## 幼稚園・保育園の部

▼最優秀賞  
鈴木一磨 (本荘市・清徳幼)

▼優秀賞  
大日向志穂 (東由利町・永慶保) 遠  
藤裕二 (同) 三浦圭太 (本荘市・清  
徳幼) 石垣裕太郎 (岩城町・亀田保)  
須田由香 (象潟町・小砂川保)

▼佳作  
水澤雄太 (秋田市・秋田経法大附屬  
さくら幼) 伊藤遙香 (秋田市・こま  
どり幼) 長谷山貴博 (東由利町・み  
どり保) 久杉亮 (本荘市・清徳幼)  
長田恭彦 (同) 中村響子 (岩城町・  
亀田保) 嶋村興樹 (田沢湖町・神代  
幼)

▼入選  
鈴木菜緒 (田沢湖町・神代幼) 津嶋  
志寿子 (同) 大滝陽平 (本荘市・清  
徳幼) 加藤麻弥 (同) 遠藤幸子 (同)  
高橋里子 (同) 斎藤香澄 (同) 佐々  
木静香 (岩城町・亀田保) 矢野亞佑  
実 (同) 松本奈美子 (同) 須藤瞳  
(象潟町・小砂川保) 須藤新 (同)  
須藤宏務 (同) 伊東希 (同) 加藤晶  
り保 (同) 遠藤美加 (東由利町・永慶保)  
伊東美咲 (同)